

[巻頭言]

## 情報システム学とはなにか

中嶋 聞多

情報システム学会 広報委員長

### ■はじめに

コロナ禍で多くの学会が会員を減らすなか、情報システム学会ではその数が微増している。少しずつではあるが、社会がわたしたちの主張を受け入れはじめていると考えたい。この混沌とした現代社会を理解し改革するために必要とされているのである、情報システムというキーワードが。

情報システムは、1946年、世界初の汎用電子式コンピュータ ENIAC がつくられるはるか以前から存在していた。「情報システムとは、組織体（または社会・個人）の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理・伝達・利用にかかわる仕組み」のことだからだ。個としてのヒトは、データを認知し、処理し、情報にかえる身体の仕組みをもっているし、集合体としてのヒトは、組織的な情報を蓄積し、伝えあい、集団的利用を可能にする。それによって組織体が形成され、それらが集まって社会ができる。いわば情報システムが社会をつくっているのである。ヒトだけではない。アリアミツバチだってやっていることだ。

一方、ヒトの世界では、デジタル技術（あえて情報技術とはいわない）の登場が世界を変えた。それまで比較的ゆるやかであった技術や社会の進歩の速度を、幾何級数的に変えてしまったのである。情報システムは、いまやグローバルにつながる政治・経済・社会になくはならぬものになった。それどころか、私たちが暮らす現実世界とは別の世界（another world）をつくりだすことも可能にしている。これから先、人類は同時にいくつもの世界を生きるようになるという SF 的な予言が現実のものとなるのも近いと思う。

### ■求められる人財と情報システム学

話がすこし脱線した。申し上げたいのは、この国の喫緊の課題は以下のような人財の育成であるということだ。すなわち、

- ① いま・ここにある情報システム（Legend Systems）を、systematic に解析しなおすだけでなく、systemic（あるいは holistic）にとらえ、
- ② ヒトと最新の技術（アナログ、デジタル、AI、量子、バイオなんでもあり）を、どこにどう使えばよりよい情報システムになるかを考え、
- ③ それを実現する（implement）

SE (System Engineer) または Sler (System Integrator) と呼ばれる職種の人たちである。

では、彼らが習得しなければならない知識や技能とはなにか。それこそ「世の中の仕組みを情報システムとして考察し、その本質を捉え、そこに横たわる問題を究明し、そのあり方を改善することを目指す実践的な学問」としての情報システム学（Information Systems：最後に s がつくことに注意）なのである。

### ■新たな総合知をめざして

本誌が求める論文や報告は、こうした情報システム学の教育・研究・実践の成果であるべきだ。それらがひとつひとつ煉瓦のように積み重なり、新たな総合知としての情報システム学という立派な建物ができあがるのだと思う。もちろん私たちができることはなんでもする。どうか皆さまもこの壮大な取り組みに力を貸してほしい。

### 著者略歴

#### 中嶋 聞多（なかじま もんた）

情報システム学会広報委員長、大阪大学工学部卒業後、文部事務官(上級職)として母校の図書館に勤務。図書館業務の”機械化(当時はこう呼ばれていた)”に取り組んだ。その後、国立民族学博物館に移籍、当時の梅棹忠夫館長から、実務と研究両面での貢献を求められ、情報管理領域における研究に従事。その業績が認められ、東京慈恵会医科大学医学情報センターに助手(専任教員)として採用された。在職中、近隣の慶應義塾大学大学院に通学、浦昭二先生や細野公男先生の指導を受ける。またその間、浦先生とともに浦・中嶋情報システム研究所を立ち上げ運営。以降、文教大学助教授、信州大学教授・学長補佐、法政大学大学院政策創造研究科教授、事業構想大学院大学教授・副学長として教育・研究・経営に従事。その間、慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授、新潟薬科大学応用生命学部生命産業創造学科学科特別招聘教授なども歴任。2016年4月からは専任教授の立場を離れ、信州大学特任教授として複数の重要プロジェクトを遂行するとともに、現在は、自治体や企業・大学等の活性化&事業構想アドバイザーとしても活躍中。公職としては、2017年度より内閣府地方創生カレッジ

推進会議委員, 2021 度から日本観光振興協会全国広域観光振興事業運営評議会委員, (一社)情報システム学会常務理事・広報委員長など. また 2008 年に設立された地域活性学会において, 理事, 副会長をへて, 第 3 代会長をつとめた (2017.9-2021.9). 2019 年からは京都芸術大学客員教授として芸術教養教育に力を注いでいるほか, 上田女子短期大学 (長野県) の理事として短期大学の改革にも取り組んでいる.